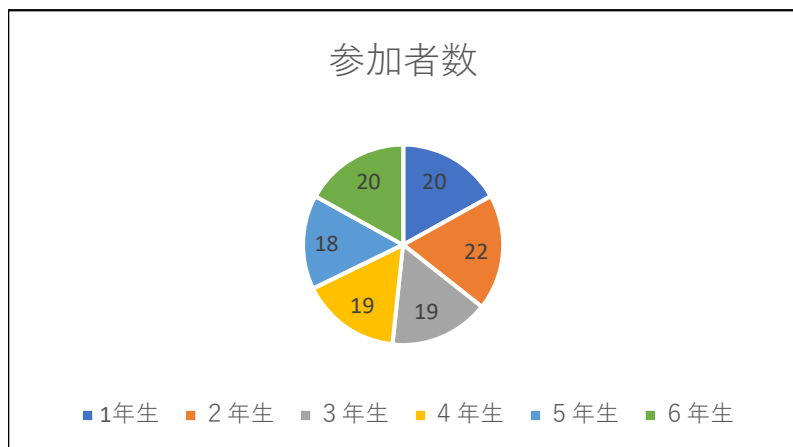


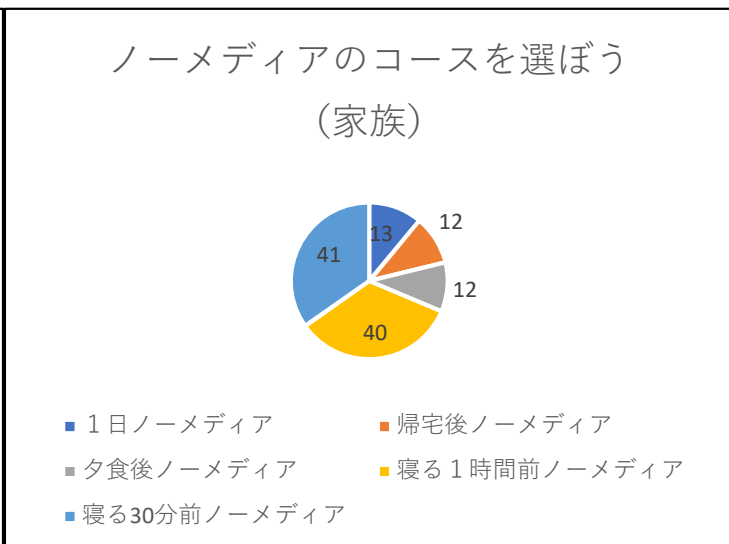
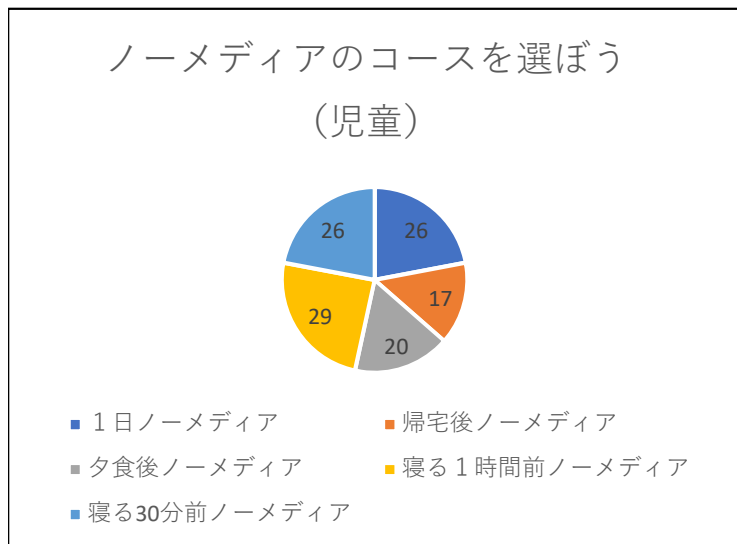
かぞくでチャレンジ！ノーメディア・読書ウィーク（小学生結果）

1. 参加人数（小学生） 118名参加



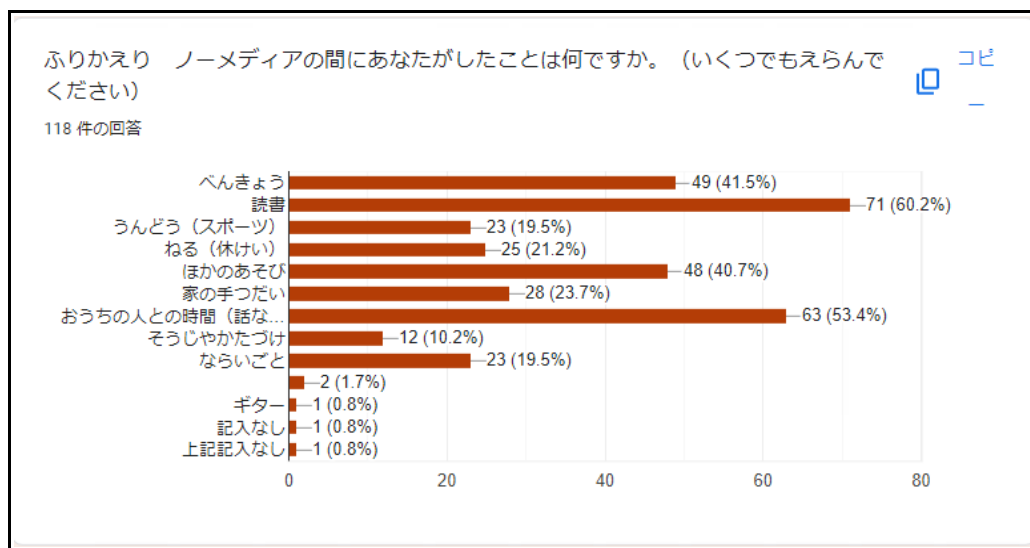
実施期間は、6月19日（月）～7月9日（日）から1週間を選んで読書ウィークとし、その内1日をノーメディアチャレンジを行う。
各学年から20名程度、118名が参加。これは、多可町の小学生の14.5%にあたる。

2. ノーメディアのコース



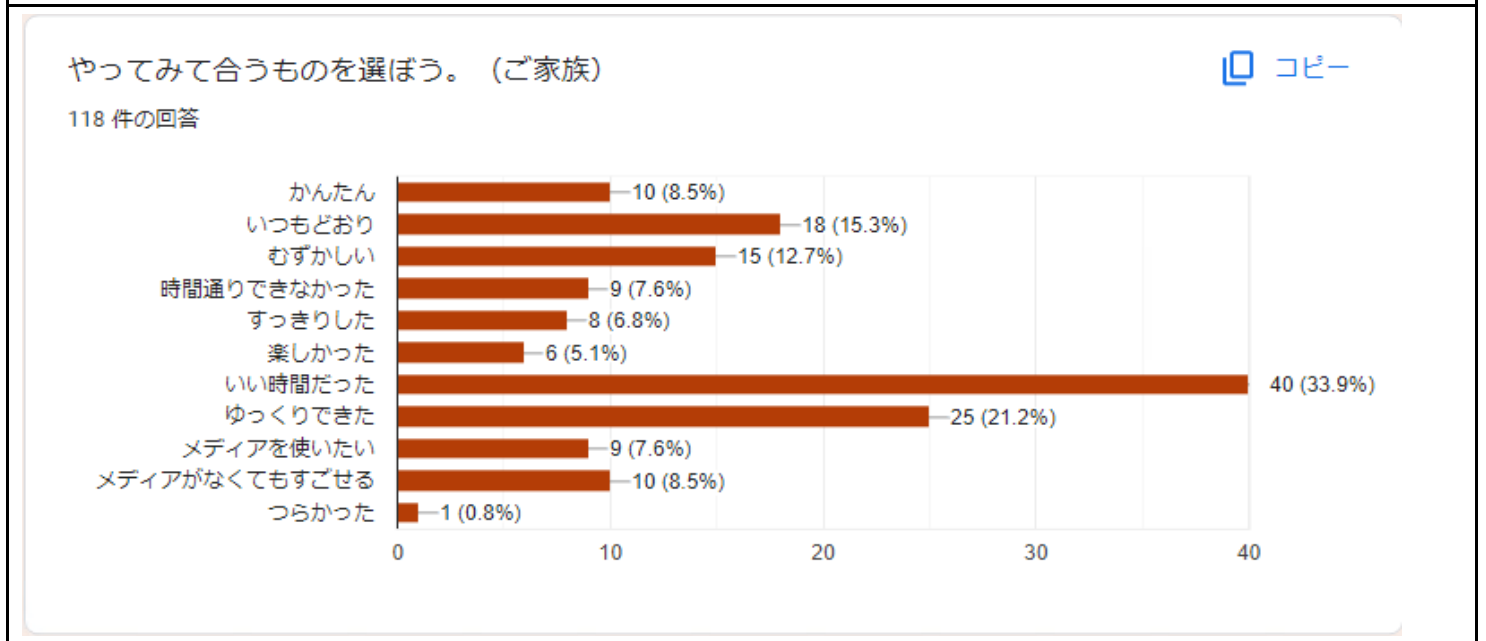
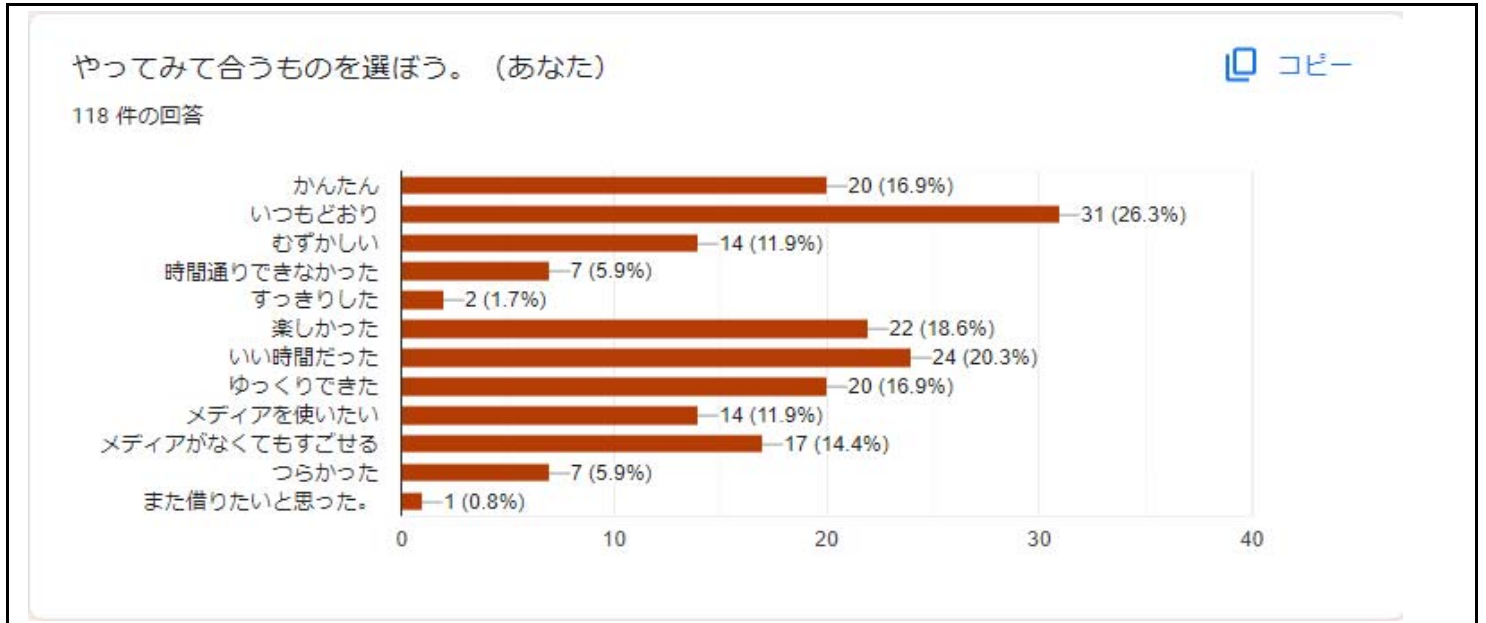
参加児童は、手軽な就寝1時間前、30分前からメディアを使用しないコースを選択。また、1日電子メディアを使用しないノーメディアのコースを選ぶ人数も多数あり。家族の方も手軽にできる寝1時間前、30分前からメディアを使用しないコースを選択される方が7割を占める。

3. ノーメディアの間にしたことは



児童がノーメディアの間にしたこととして、読書・家庭の時間、学習、他の遊びに充てている。メディア使用以外にも様々なことをして過ごしていることが分かる。

4. ノーメディアの感想



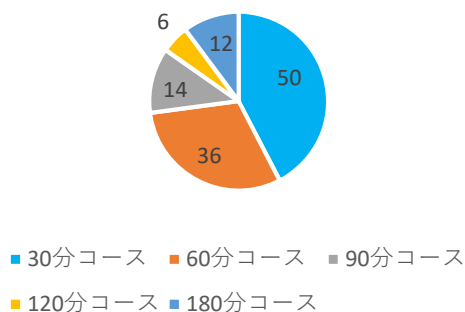
普段使用している電子メディアを意識して使用しないということが、子どもよりも大人の方が難しいことがグラフより読み取ることができる。しかし、大人の方が、メディア使用ができない分、心を落ち着けるよい機会となったと感じていることも読み取れた。児童は、電子メディアがあるのが当たり前の世代ではありながらも、多くの児童がメディア使用しなくてもリラックスしたり、自分のために時間が過ごせたりしたようである。

しかし、中には「1日ノーメディア」を選択したものの、1日はなかなか難しかったと答える児童6名ある。少しずつ減らしたり、自分に合う時間で設定することで取り組みやすくなるかもしれない。

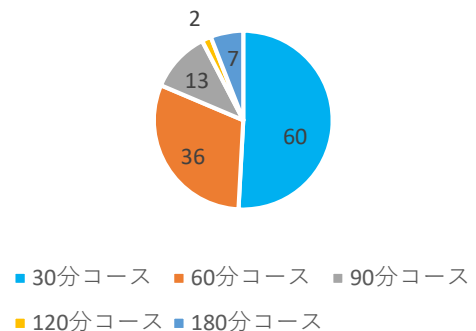
「寝る30分前ノーメディア」、「寝る60分前ノーメディア」に対しても、難しい、つらいと感じている児童があり、普段から寝る前にはメディアの使用を区切るというくせをつければ取り組みやすくなるのではと思う。

5. 1週間の読書時間コース選択と1週間で読んだ時間

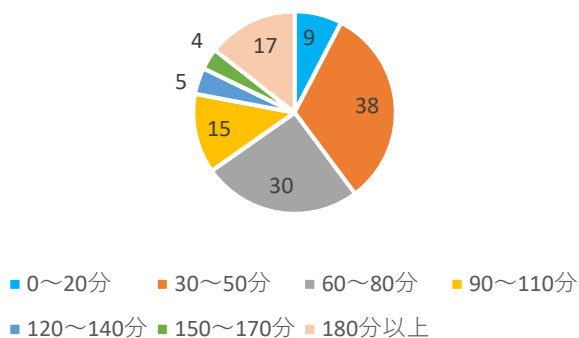
1週間でどのくらい読むかコース
を選ぼう（児童）



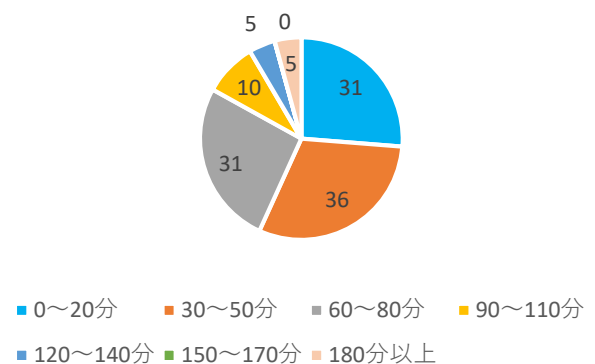
1週間でどのくらい読むかコース
を選ぼう（家族）



1週間の読書時間（児童）



1週間の読書時間（家族）



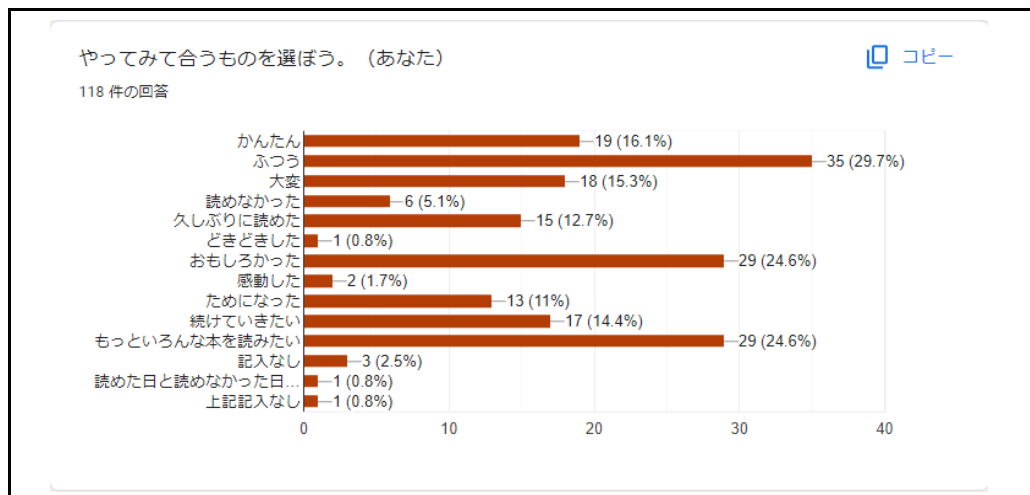
コース選択の際は、30分コースが児童・家族ともに多かった。6割弱の児童が60分以上読もうという意識が見られる。家族の方は、半数弱が60分以上読もうという違式が見られる。また、90分以上読もうと選択する児童が27%、家族で18%ある。

結果は、30分ごとに時間を区切ると、子どもは30～50分までが一番多く、続いて、60～80分、180分以上となる。180分以上読んでいる児童も17名（14.4%）いる。1週間で60分を超える読書時間がある児童が半数以上いることが分かる。

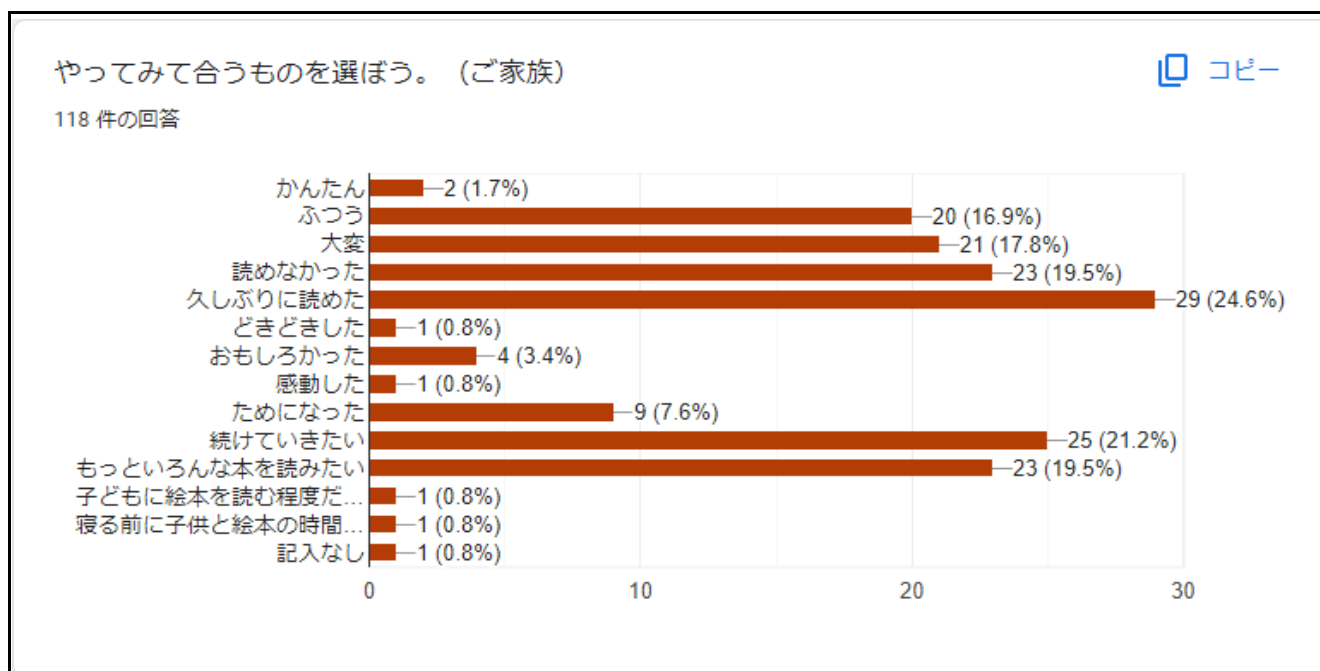
家族の方は、半数以上が50分までである。コース選択時は、30分コースであったが、実際はそれ以上に読書をする方が多かったことが読み取れる。

詳しく見ると、10分～50分の児童が読むのが大変であったと感じている。普段から読む機会が少ないことを読み取ることができる。興味のある題材で、文字数が少ないものから楽しめる読書ができればと思う。

6. 読書アンケート感想



読書をすることにに対する難易度が、「簡単」・「普通」を含めると45%ある。逆に「大変」・「読めなかった」児童は、20%程度であり、読書に対する意識が薄かったり、ハードルが高いようである。読んでみると、興味が湧いたり、今後も続けていきたいと感じるなど、児童自身が本の魅力を感じることができている。本と触れあう時間があれば、本のおもしろさを感じることができる児童が8割弱いることが分かる。



その他感想

- ・子どもに絵本を読む程度だった
- ・寝る前に子供と絵本の時間を楽しんでいるので、その時間は充実している。その他の時間でなかなか読書の時間をとれていないので、自分のための読書時間も確保していきたい。

群を抜いて多い項目が、「久しぶりに読めた」である。子どもと比較すると、「大変」「読めなかった」が多く37%の方が、読書へのハードルの高さがうかがえる。読書時間の確保や本以外の多様なエンターテイメントがあるなど、様々な要因があるが、大人が本に触れあう機会が減っていることが分かる。しかし、家族の方も、本の有意性を感じたり、本への興味は感じたりされているので、今後も時間をとって読書をしてほしいと感じる。